

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 人口減少危機、日本社会の一大事（40分）</p> <p>国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」（平成29年度推計）によりますと、日本の人口は2065年には8,808万人にまで減少するとされています。</p> <p>中でも、出生数の減少が問題です。2020年6月5日に厚生労働省が発表した「令和元年人口動態統計月報年計（概数）」では、昨年一年で出生した日本人の子供の数が86万5,234人となりました。一昨年が91万8,400人ですから、実数にして一年で5万3,166人も子供の出生数が減ったこととなります。この減少の流れが今年も続くとすれば、予想される今年の子供の出生数は約81万人となります。</p> <p>こんなことは考えたくもありませんが、このままのペースで減少が続けば、あと20年もしないうちに出生数がゼロということにもなりかねません。馬鹿げた想像と笑われるかもしれませんが、単純計算ではそうなるほかないのであります。</p> <p>このような状況から、本市における現状と、このことへの対策を質問いたします。</p> <p>(1) 本市の出生数の推移は。</p> <p>(2) 日本の人口減少危機をどう捉えているか。また、人口減少の最大の要因をどう分析しているか。</p> <p>(3) 学校教育の場では（家族、結婚等を）どう教えているか。</p> <p>(4) これまでの本市の少子化対策は十分であったか。</p> <p>(5) 「鶴ヶ島版ネウボラ」を新たに「（仮称）鶴の子育てプロジェクト」へと改称し、司令塔としての事業責任者（統合的部署）の設置を。</p> <p>(6) 今後の本市の少子化対策の展望は。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>